



静岡県内経済情勢

令和6年2月1日

財務省東海財務局


静岡財務事務所

1. 総論

総じて回復しつつある。








先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、回復が続くことが期待される。ただし、世界的な金融引締めに伴う影響や中国経済の先行き懸念など、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、人手不足、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

【総括判断】

前回（5年10月判断）	今回（6年1月判断）	前回比較	総括判断の要点
一部に弱さがみられるものの、回復しつつある。	総じて回復しつつある。		「生産活動」は、自動車関連を中心に回復しつつある。また、「個人消費」は、緩やかに回復しつつあるほか、「雇用情勢」は、緩やかに改善しつつある。

（注）6年1月判断は、前回5年10月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

【各項目の判断】

項目	前回（5年10月判断）	今回（6年1月判断）	前回比較
主要項目	個人消費	緩やかに回復しつつある。	緩やかに回復しつつある。 
	生産活動	回復に向けたテンポが緩やかになっている。	回復しつつある。 
	雇用情勢	緩やかに改善しつつある。	緩やかに改善しつつある。 
その他の項目	設備投資	5年度は増加見込みとなっている。	5年度は増加見込みとなっている。 
	企業収益	5年度は増益見込みとなっている。	5年度は減益見込みとなっている。 
	住宅建設	新設住宅着工戸数で見ると、前年並みとなっている。	新設住宅着工戸数で見ると、前年を下回っている。 
	公共事業	前払金保証請負金額で見ると、前年並みとなっている。	前払金保証請負金額で見ると、前年を下回っている。 
	企業倒産	件数は前年を上回っている。	件数は前年を上回っている。 —

2. 各論

最近の静岡県内経済情勢における主要項目の動向は、以下のとおりとなっている。

【個人消費】 — 緩やかに回復しつつある。 —

スーパー販売は、持ち直している。

コンビニエンスストア販売は、回復のテンポが緩やかになっている。

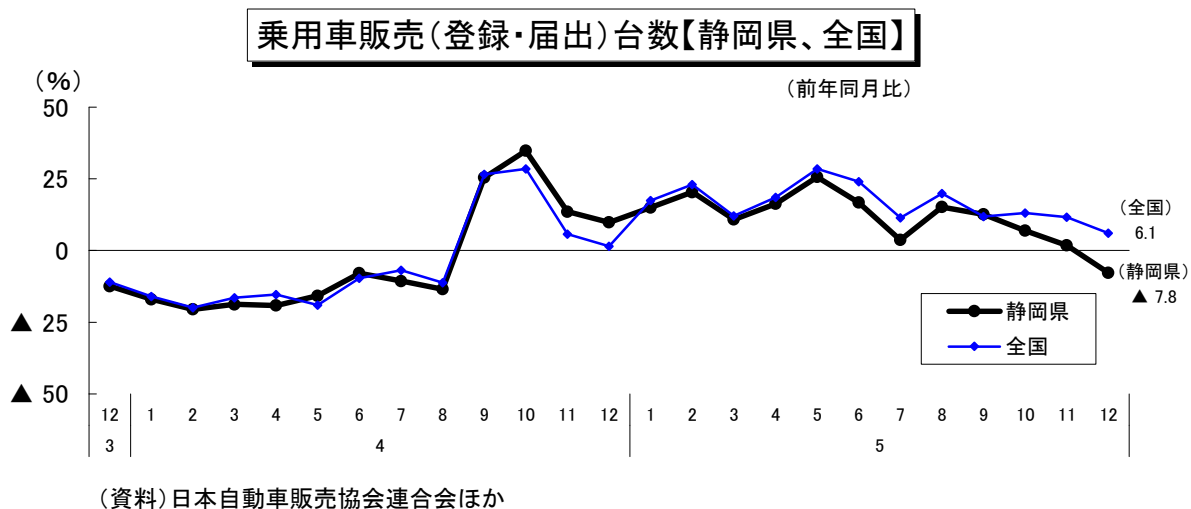
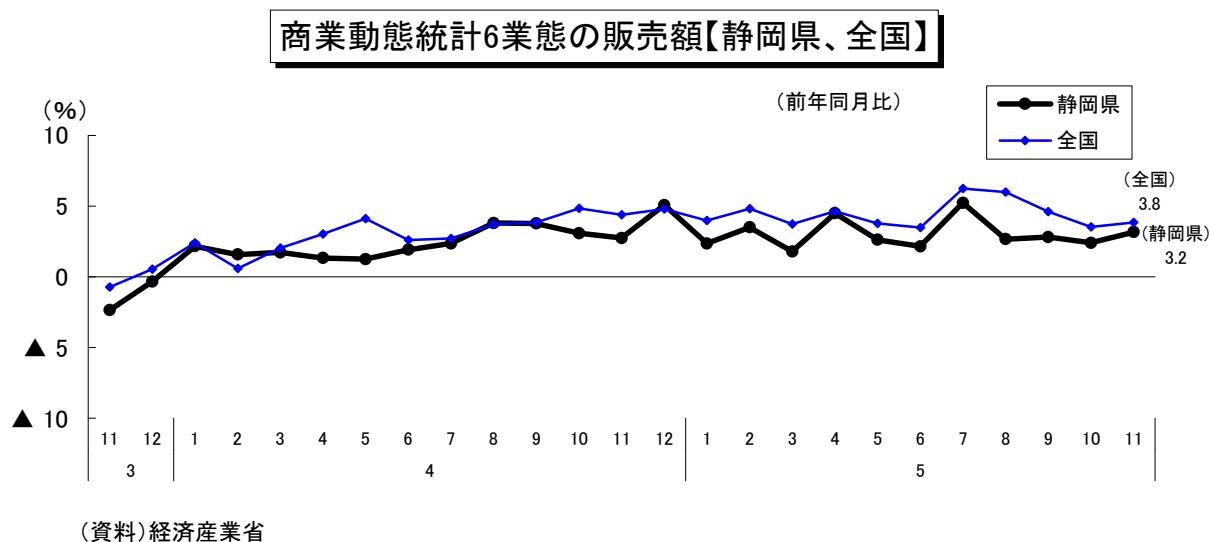
ドラッグストア販売は、新規出店効果等により、増加している。

百貨店販売は、持ち直している。

家電大型専門店販売は、弱い動きとなっている。

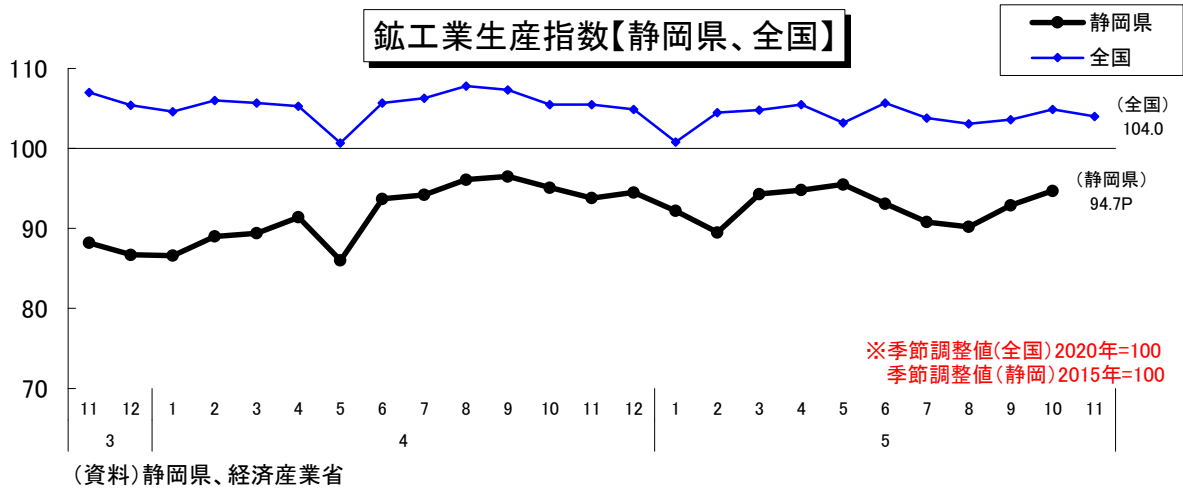
乗用車販売は、回復に向けた動きに一服感がみられる。

観光地への入込及び宿泊客数は、回復している。



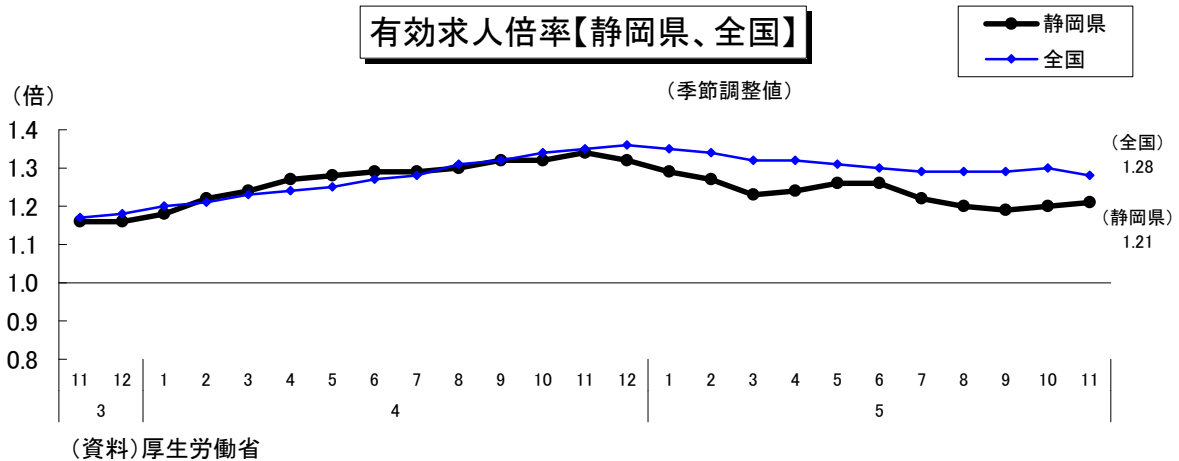
【生産活動】 — 回復しつつある。 —

自動車関連では、乗用車、自動車部品ともに回復しつつある。
 オートバイは、おおむね横ばいとなっている。
 電気機械は、下げ止まっている。
 生産用機械は、受注残が豊富なことから、回復しつつある。
 紙・板紙は、おおむね横ばいとなっている。
 ピアノは、弱い動きとなっている。



【雇用情勢】 — 緩やかに改善しつつある。 —

有効求人倍率は、おおむね横ばいとなっている。
 完全失業率は、低水準である。
 法人企業景気予測調査（令和5年10-12月期）の従業員数判断BSIで見ると、製造業・非製造業ともに、「不足気味」超となっている。



3. 県内景気に関する地域の声

個人消費

- ・ 節約志向などもあってプライベートブランドが堅調である。なお、ハレの日需要は好調で、年末年始はオードブルや寿司などを中心に売上が増加した。(スーパー)
- ・ 前年の全国旅行支援の反動はみられるものの、都市部などを中心に人流が活発化しており、売上は堅調に推移している。(コンビニエンスストア)
- ・ 初売りでは、昨年より多めに用意した福袋が完売するなど、好調であった。(百貨店)
- ・ 年末年始の宿泊客数は好調であった。熱海梅園や河津桜など花イベントシーズンを迎え、宿泊予約は順調。(旅館組合)

生産活動

- ・ バックオーダー解消に向けて、引き続き高水準の生産体制としている。当面このフル生産を維持する計画。(輸送機械メーカー)
- ・ 完成車メーカーからの受注が増加しており、時間外労働時間の上限規制ギリギリの残業や休日出勤で対応している。(自動車部品メーカー)
- ・ オートバイに対する北米での購買意欲の落ち込みはみられず、スポーツモデルなどを中心に生産は堅調に推移している。(輸送機械メーカー)
- ・ 昨夏以降続けていた在庫調整に目途がついたことから、足下では通常レベルの生産体制に戻りつつある。(電気機械メーカー)
- ・ 国内外の需要が落ち着き、在庫が増加していることなどから、生産水準を落としている。(楽器メーカー)

雇用情勢

- ・ 人材を確保するため、ベースアップや諸手当を見直し、賃金水準を引き上げた。この結果、足下では離職者は減少している。(ドラッグストア)
- ・ 完成車メーカーが稼働率上昇により高い人件費を提示して派遣社員を募集している。当社では、大企業のように高い人件費を提示できないため従業員の確保が困難。(自動車部品メーカー)
- ・ 今年は地元の高卒採用で苦戦している。学生には、給与条件が良い企業が人気とのこと。(生産用機械メーカー)
- ・ 旅館の人手不足は依然逼迫しているなか、サービスレベルを維持するため、稼働率を8割程度に落としているとの話を聞く。予約の問い合わせは多く入っており、需要を取りこぼしているのではないかと。(観光協会)

1. 本調査結果に関する問い合わせは下記へお願いします。

財務省東海財務局 静岡財務事務所 財務課

Tel (054) 251-4323 (ダイヤルイン)

2. 本調査結果の概要は下記ホームページでもご覧頂けます。

ホームページ= <https://ifb.mof.go.jp/tokai/sizuoka.htm>